

薬師寺旧境内の発掘調査(平城第 670 次調査)

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所  
都城発掘調査部(平城地区)

調査地：奈良市西ノ京町

調査期間：2025 年 6 月 16 日～11 月 12 日

調査面積：約 512 m<sup>2</sup>(1 区：約 42 m<sup>2</sup>、2 区：約 130 m<sup>2</sup>、3 区：約 280 m<sup>2</sup>、4 区：約 60 m<sup>2</sup>)

調査終了後のため、現地公開はありません

---

概要

---

薬師寺西院の中枢部で初めての大規模な発掘調査を実施しました。

基壇建物の基壇外装をなす東西方向の凝灰岩列を南北 2 か所で検出し、西院において創建期に遡る東西棟の基壇建物 1 棟が良好な形で遺存していることを確認しました。

薬師寺西院の伽藍配置復元のための重要な資料を得ることができました。

---

## 1. 調査の経緯と目的(図1・3)

### 薬師寺の概略と周辺の調査成果

薬師寺の歴史は天武天皇 9 年(680)に遡ります。現在、本薬師寺(遺跡は奈良県橿原市城殿町に所在)と呼ばれる藤原京の薬師寺は、天武天皇が<sup>うののみきらのひめみこ</sup> 鸕野讃良皇女(のちの持統天皇)の病氣平癒を祈念して発願した寺院です。

その後、和銅 3 年(710)の平城遷都にともなって、薬師寺は平城京右京六条二坊の現在地(奈良県奈良市西ノ京町)に移りました。平安時代の長和 4 年(1015)に書写されたといわれる『薬師寺縁起(護国寺本)』には養老 2 年(718)に造営を開始した旨の記載があるものの、東僧房の発掘調査で霊亀 2 年(716)の記載のある木簡が平城宮造営開始期の土器類などとともに出土しています。実際に伽藍の造営を開始したのはその頃であったと考えられています。

薬師寺では、これまで奈良文化財研究所が金堂とその周辺の主要建築である講堂・鐘楼・回廊・東西両塔などについて断続的な発掘調査を実施してきました。令和 6 (2024)年度には未発掘であった回廊の西北隅と鐘楼東辺・南辺の発掘調査を実施し、回廊の基壇など奈良時代に遡る遺構が良好な状態で遺存していたことを確認しました(平城第 665 次調査)。

## 調査の目的と概要

平城第 670 次調査は、市道西ノ京西南北線建設にともなう事前の発掘調査として、奈良市教育委員会からの委託を受けて実施しました。

調査地は薬師寺旧境内に相当し、近鉄橿原線のすぐ西側に位置します。『薬師寺縁起(護国寺本)』などの文献史料や、『薬師寺絵図』(江戸時代、17 世紀)などの絵図によれば、調査地は薬師寺旧境内の西院であったことがわかっています。この区域では、奈良文化財研究所が小規模な発掘調査を実施してきたものの、その中心部における大規模な調査は今回が初めてとなりました。調査は、計画道路が西院の中心建物である西院堂の推定地を南北に縦断することをふまえ、西院堂に関連する遺構の存否や遺存状況の把握を目的に実施しました。

なお、敷地が東西方向の水路・道路により 4 区画に分かれていることから、調査区は南から順に 1 区～4 区としています(図 3)。

## 2. 主な検出遺構

### (1)奈良時代の遺構(図6～11)

#### ①基壇建物および基壇外装(凝灰岩列)・雨落溝

2 区北端部と 3 区南部において、凝灰岩による壇正積<sup>だんじょうづみ</sup>基壇外装の一部や雨落溝<sup>あまおちみぞ</sup>を検出しました。上記の 2 か所の間には基壇土の一部が残存していた一方、その他に凝灰岩列などの明確な遺構は確認していません。南北最大 22m におよぶ東西棟の基壇建物 1 棟が良好な形で遺存していることを示す成果です。

北面基壇外装(3区凝灰岩列)・雨落溝(図7～10) 南端から 13～16m 付近で 3 列計 28 石を奈良時代整地土の直上で検出しました。南から地覆石<sup>じふくいし</sup>(赤)と、その下に設置した延石<sup>のべいし</sup>(紫)です。一石の大きさは長さ 0.6m・幅 0.3m と、長さ 0.9m・幅 0.3m の 2 種類があり、厚さ 0.1～0.2m です。地覆石・延石はそれぞれ北側に 1.2～1.5m 張り出すように並ぶ箇所があり、東西棟の基壇建物の北面をなす壇正積基壇外装のうち北面階段にあたります。階段の内法(延石の内側端から端までの東西幅)は約 4.8m(16 尺)です。基壇外装の南側には南北 1.8 m の範囲で基壇土が一部残存していました。

この基壇外装の北側では幅 0.4～0.6m、深さ 0.1m の素掘りの雨落溝を検出しました。階段東西の出隅部分では幅 0.1m と狭くなります。底面には玉石状の凝灰岩が敷かれています。

北面基壇外装を覆う堆積土ならびに雨落溝の埋土から瓦器など中世の土器片が少量ながら出土しており、中世前半には何らかの破壊を受けていたと考えられます。

南面基壇外装(2区凝灰岩列)・雨落溝(図6・9・11) 北端付近で 1 列 4 石を奈良時代整地土の直上で検出しました。一石の大きさは長さ 0.9～1.0m、幅 0.30～0.35m、厚さ 0.1～0.3m です。各石の北端上面には別の石材を載せるための加工痕が残っています。東西棟の基壇建物の南面をなす壇正積基壇の外装のうち、地覆石の下に設置された延石とみられます。この凝灰岩列の南側で幅 0.4～0.6m、深さ 0.1m の素掘りの雨落溝を検出しました。

## ②掘立柱柱穴(列)・土坑(図6・7)

**2区南北柱穴列1** 2区の西部～中央部で検出した4基の柱穴です。掘方は一辺 0.8～1.1mで深さ 0.3～0.4m(遺存状態の良好な南から2基までの数値)、柱間寸法は 3.75m(12.5尺)等間に復元できます。掘立柱建物の側柱または妻柱とみられます。

**2区南北柱穴列2** 2区北端から 18～27mの位置で検出した2基の柱穴です。掘方は一辺 1.1m、深さ 0.4m(南側の1基)で、北側1基の遺存状況が悪いため柱間寸法の復元はできていません。

**2区柱穴1・2** 2区北端から 2～4mの位置で検出した2基の柱穴です。北側の柱穴1が南側の柱穴2に重複しており、柱穴1が2よりも新しい時期のものです。2基とも西端が調査区外に及ぶため全体の大きさはわかっていません。

柱穴1の掘方は一辺 1.0mで深さ 0.5～0.6mです。埋土に土器・瓦磚類のほか凝灰岩片を含み、底面に瓦を敷いています。柱穴2の掘方は一辺 0.5mで深さ 0.5～0.6mです。埋土に奈良時代の土器・瓦磚類を少量含みます。

**2区柱穴3** 2区北端から 8～9mの位置で検出しました。東端が調査区外に及ぶため全体の大きさは不明ですが、掘方は一辺 0.8mで深さ 0.2mです。

**2区柱穴4** 2区北端から 9～10mの位置にあたり、2区南北柱穴列1の北から2基目の柱穴に重複する形で検出しました。南北柱穴列1よりも古い時期の柱穴です。掘方は一辺 0.8mで深さ 0.15mです。

**3区南北柱穴列** 3区北端から 17～19m付近で検出した2基の柱穴です。掘方は一辺 0.8～0.9mで深さ 0.4～0.6m、柱間寸法は 1.8m(6尺)に復元できます。南側の1基では直径約 40cmの柱根が残存していました。さらに南側にも柱穴列が続いていた可能性もあります。後述する3区東西大溝2によってその存否は不明です。

**3区柱穴1** 調査区北端から 4m付近で検出した柱穴です。掘方は一辺 0.7～0.8mで深さ 0.5m、直径約 50cmの柱根が残存していました。

**3区柱穴2** 調査区北端から 17m付近、東側排水溝内で検出した柱穴です。東端は調査区外に及ぶため全体の大きさは不明ですが、西端は長さ 0.5m、深さ 0.2mです。

**3区土坑1** 調査区北端から 31～33m付近で検出した土坑です。掘方は一辺 1.2mで深さ 0.4～0.5mです。埋土は上層の暗青緑土と下層の暗褐色土の2層に分かれます。埋土に奈良時代の土器・瓦磚類を含み、二彩多孔瓶片が出土しました。

## (2)平安時代～中近世の主な遺構(図4・5・7)

## ①土坑

**4区廃棄土坑(図4)** 4区南側で検出した東西幅 7.5m、深さ 0.4～0.5mの土坑です。南端が調査区外に及ぶため正確な規模はわかっていません。埋土に10世紀初頭ごろまでの土器・瓦磚類を多く含んでいました。

**3区土坑2** 3区北端から6～8m付近で検出した土坑です。南北4.3m、深さ0.4～0.6mですが、東部が調査区外に及ぶため正確な規模はわかりません。古代末～中世初頭までの土器・瓦磚類が出土しました。

## ②東西溝・池状遺構

**4区東西溝** 4区北側で検出した素掘りの溝です。北肩は調査区外に及ぶため全体の幅は不明ですが、深さは0.5mです。上記の4区廃棄土坑を壊して掘削しています。埋土中の遺物から近世とみられます。

**3区東西大溝1** 3区北端で検出した大溝です。南肩のみの検出のため幅は不明ですが、深さは0.8mで、南肩部には石組があります。埋土に近世までの土器・瓦磚類を含みます。

**3区東西大溝2** 3区北端から22～27m付近で検出した大溝です。南北幅8.2m、深さ0.8mで、南北両肩に護岸の杭や石組があります。埋土に近世までの土器・瓦磚類を含みます。溝の幅を狭くしつつ掘削しなおした痕跡を検出しました。

**3区東西大溝3** 3区中央付近で検出した大溝です。南北幅7.2～8.3m、深さ0.8～0.9m、南北両肩に護岸の杭や石組があります。埋土に近世までの土器・瓦磚類を含みます。3区東西大溝2と同じく、溝の幅を狭くしつつ掘削しなおした痕跡を検出しました。

**2区池状遺構(図5)** 2区北端から18～27mの位置で検出しました。調査区の範囲内では北から南、東から西へと落ち込んでおり、最大の深さは1.0mに及んでいますが、全体の規模は不明です。埋土下層には一定の水の流れがあったことがわかっています。一方、上層は木材を多く含む有機物層と粘土層とが互い違いに積み重なった埋め立て土です。上層から近世の土師皿が出土したことから、近世に埋め立てられたことが判明しました。

## 3. まとめ

### (1)奈良時代に遡る大型基壇建物の一部を検出しました

これまで中樞域の大規模な発掘調査が行われていなかった薬師寺旧境内西院の中心部に、東西棟の基壇建物1棟および基壇外装の一部が良好な状態で遺存していることがわかりました。

3区で検出した基壇外装(凝灰岩列)は建物北面の階段部分とみられ、基壇の東西幅は不詳ですが、南北幅は階段の張り出しを含めて最大22mです。北面階段の内法(延石の内側端から端までの東西幅)は4.8m(16尺)と、薬師寺金堂の階段幅(12.5尺)を超え、講堂の階段幅(17尺)にも迫ります。薬師寺伽藍の中樞をなす金堂周辺の主要堂宇にも匹敵する規模です。

また、基壇建物以外にも掘立柱の柱穴を複数検出しました。存続期間は不明ながら、薬師寺西院に掘立柱建物が存在したことを示します。

## (2)西院・東院の伽藍を復元する重要な成果を得ました

今回の調査で検出した西院の基壇建物は東西棟の建物 1 棟分にあたります。これに対して、薬師寺中心伽藍を挟んで東側に所在する東院堂は異なる構造であった可能性があります。

現存する東院堂は西向きの南北棟建物 1 棟ですが、奈良文化財研究所による過去の発掘調査(平城第 457 次調査)では、東西棟の基壇建物 1 棟の壇正積基壇外装の一部と掘込<sup>じぎょう</sup>地業の痕跡を発見しました。東院の基壇建物は南端と西端のみを検出しているため、全体の正確な規模は不明です。しかしながら、現存する東院堂の規模と調査成果との照合から、南北 15.4 m、東西 28.1m の規模と推定されています。明確な遺構は確認していませんが、基壇建物の南側 8 m の範囲にまで地業が続くため、基壇建物の南方に何らかの建物が存在したと考えられています。

今回の調査で検出した西院の基壇建物の東西幅は不明ですが、南北幅については階段を含めて南北約 22m と東院の基壇建物よりも大型です。また、基壇建物の前面に隣接する建物の痕跡は確認できませんでした。

『薬師寺縁起(護国寺本)』には、古代の東院には正堂と細殿の 2 つが隣接する双堂の形式の建物が存在した旨の記載がある一方、西院には正堂のみが記載されています。したがって、発掘調査で確認した遺構と文献の記載が良好に対応しています。

今回の調査成果は、薬師寺西院における伽藍配置の復元に寄与するとともに、他の区域の発掘調査成果や文献史料・絵図などとの比較検討を通して、創建期の薬師寺全体の伽藍配置の復元にもつながる点で重要です。

## (3)古代から中近世に至る土地利用変遷の一端を明らかにしました

近世には主に東西方向の溝・大溝(3 区・4 区)や池状遺構(2 区)が存在していたことがわかりました。今回検出したものと一連とみられる溝・大溝は過去に奈良文化財研究所が実施した周辺の調査(平城第 123-10 次調査・平城第 338 次調査)でも検出しており、東西の一定の範囲に及んでいたようです。『薬師寺絵図』等には池の描写があり、今回検出した池状遺構はそれにあたるものとみられます。

### 【参考】

#### 『薬師寺縁起(護国寺本)』における東院・西院にかんする記述

- 一、東院、正堂一字、前細舎一字、僧房一字、流記云、東禅院舎三口、細殿僧房、吉備内親王奉爲元明天皇、以養老年中造立也、
- 一、西院、正堂一字、中心安置画像弥勒浄土障子、北面立大唐玄奘三蔵ヵ影障子、良玉花殿様也、西端坐僧伽和尚影、在張帳并床、三面庇造層八重、双居内塔一十万基、各籠無垢浄光陀羅尼摺本、件塔以天平寶字八年甲辰秋九月十一日、孝謙太上天皇造一百万小塔、分配十大寺之其一也、

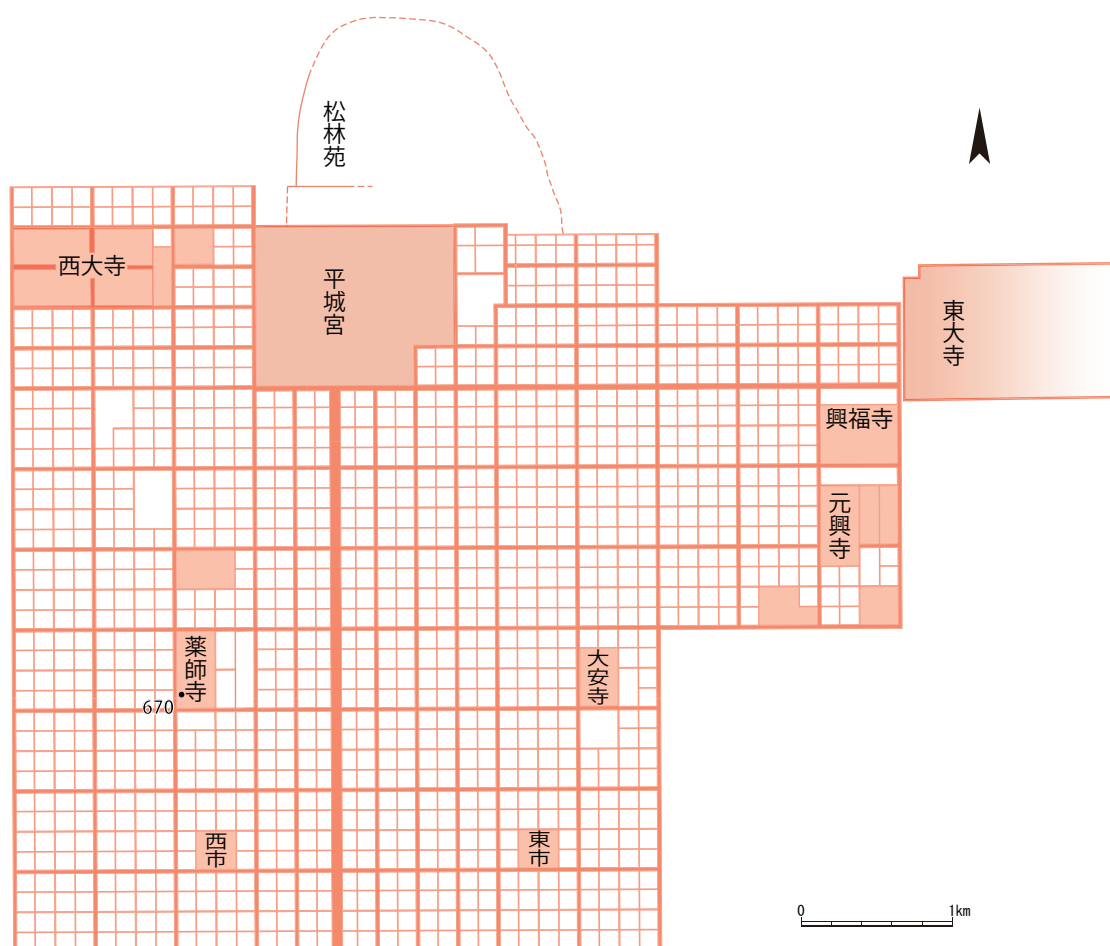


図1 調査地の位置 (S=1/50,000)

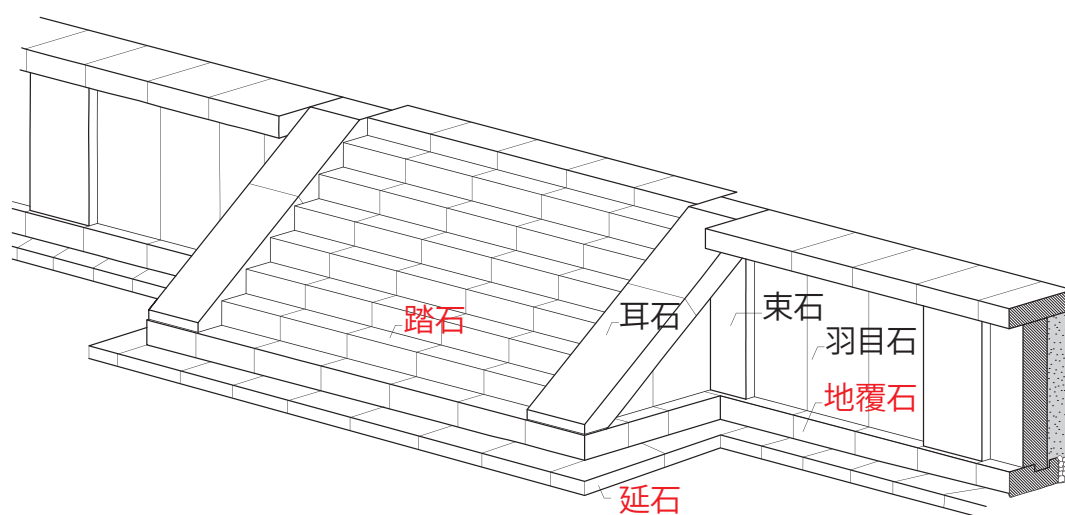


図2 古代壇正積 (だんじょうづみ) 基壇外装 (模式図)

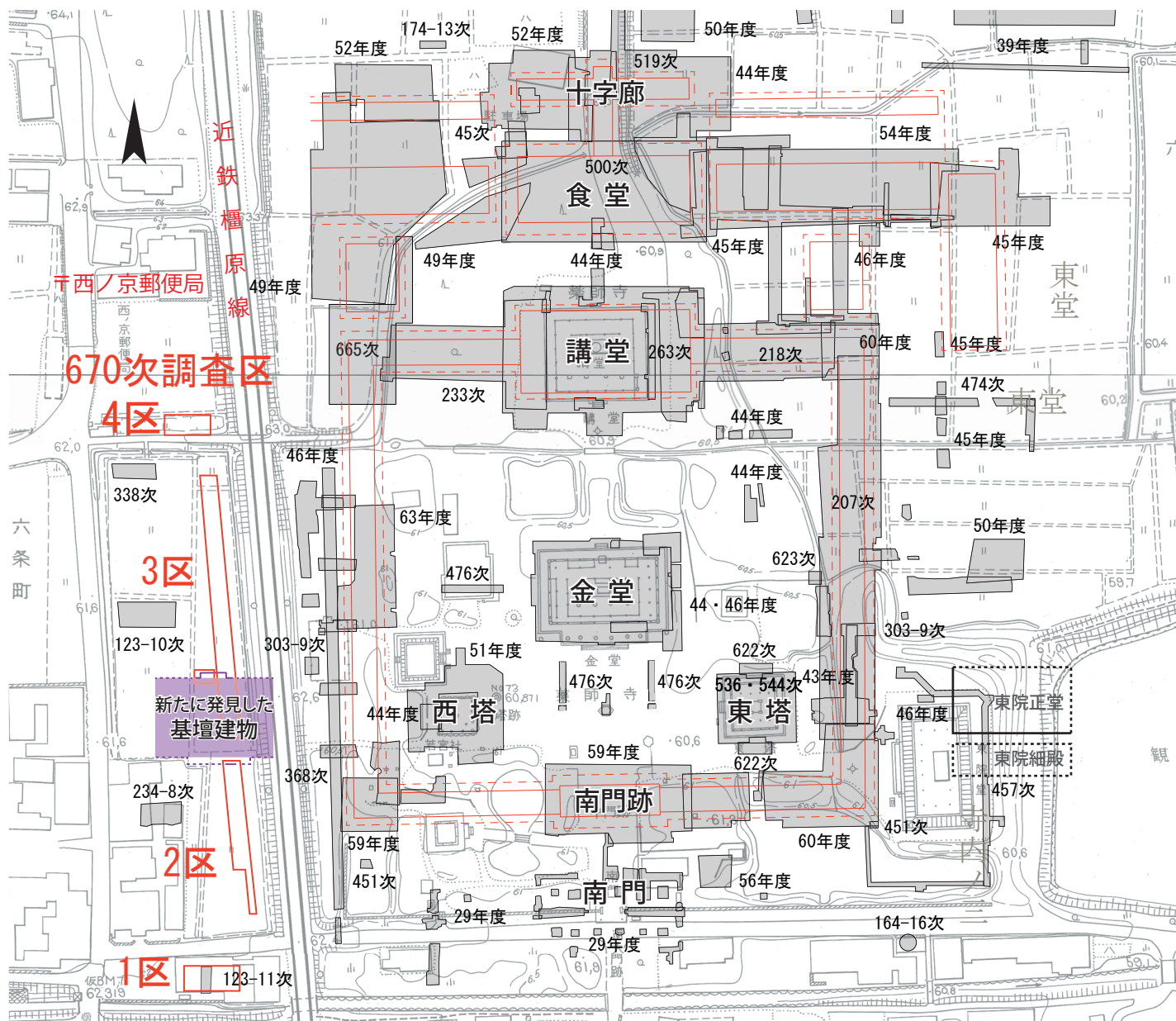


図3 調査区位置図 (S=1/1,500)

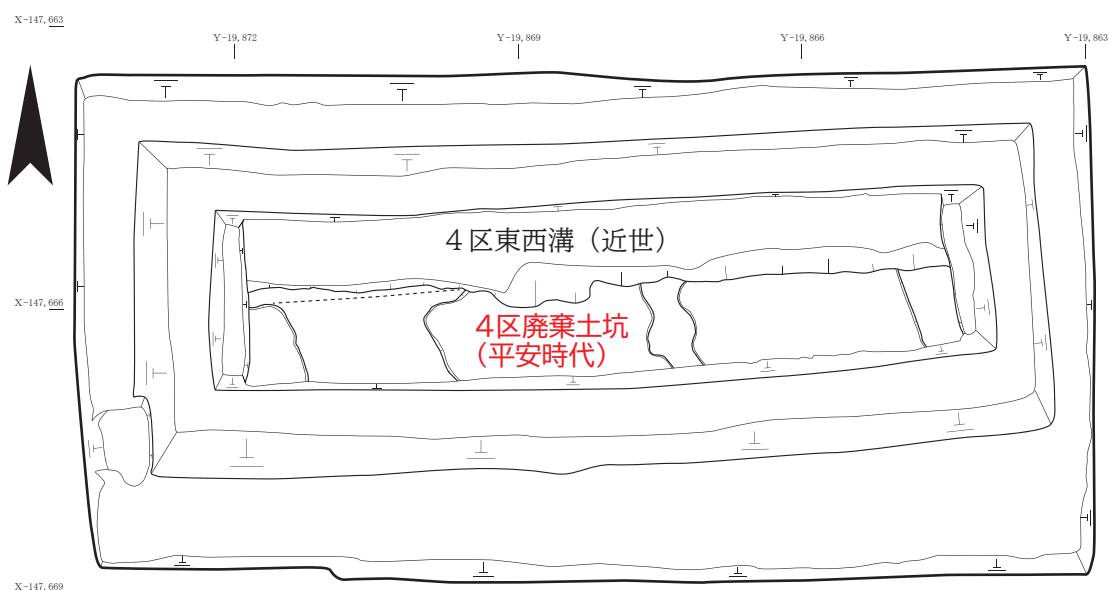


図4 4区遺構検出状況 (S=1/80)

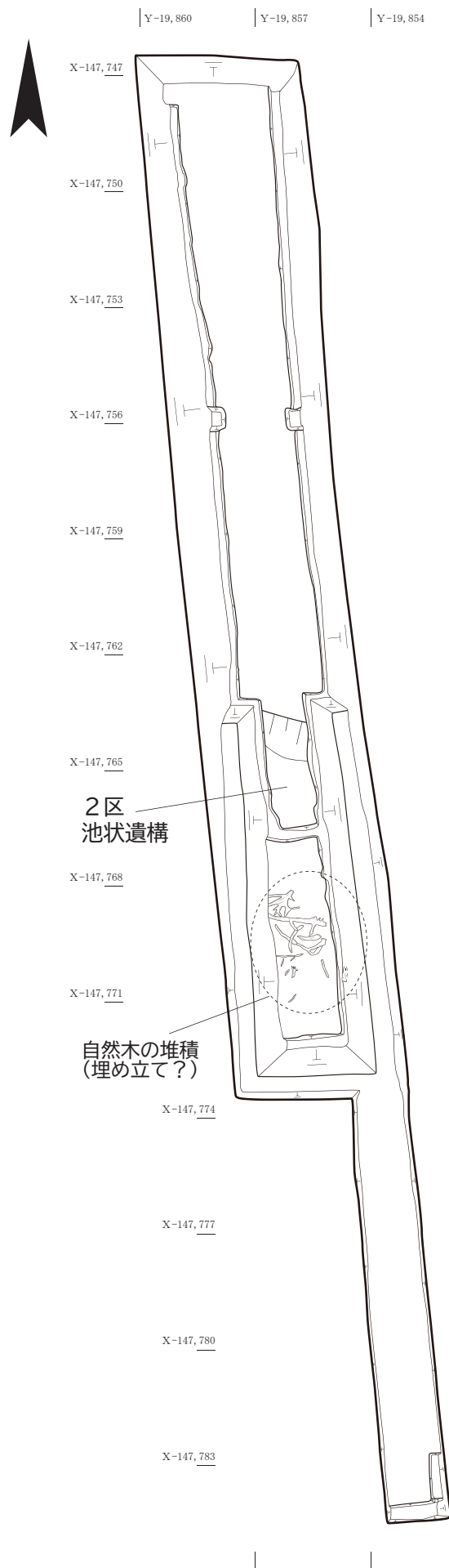


図5 2区平安～中近世遺構  
検出状況 (S=1/160)

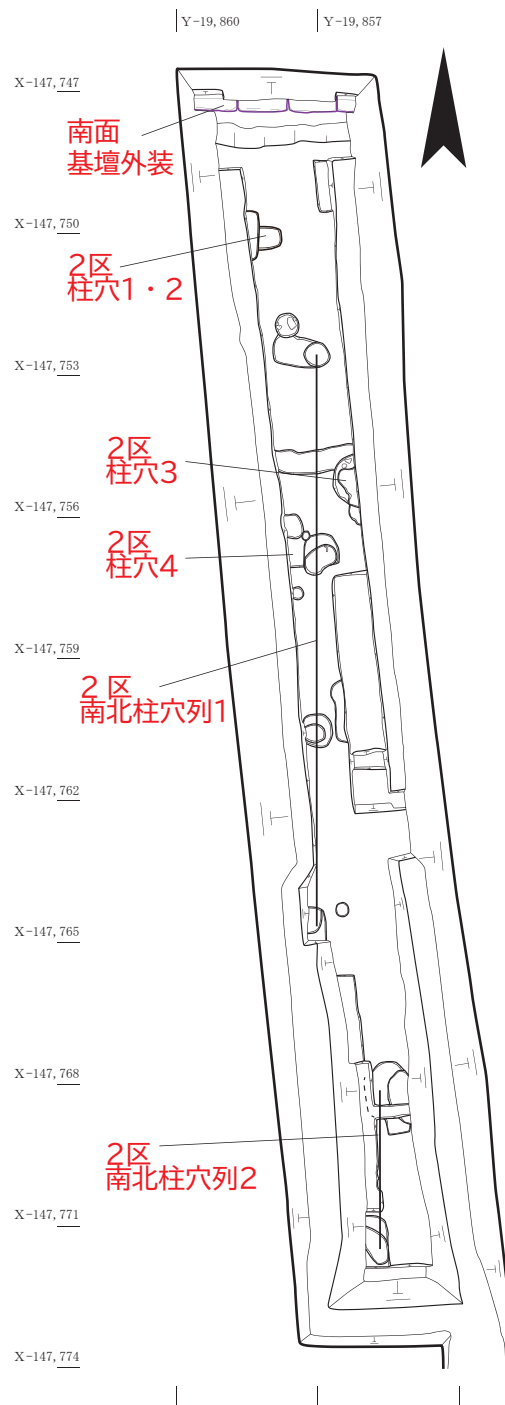


図6 2区奈良時代面遺構検出状況  
(S=1/160)

図版 3 凡例：

奈良時代の遺構：赤字

平安～中近世の遺構：黒字



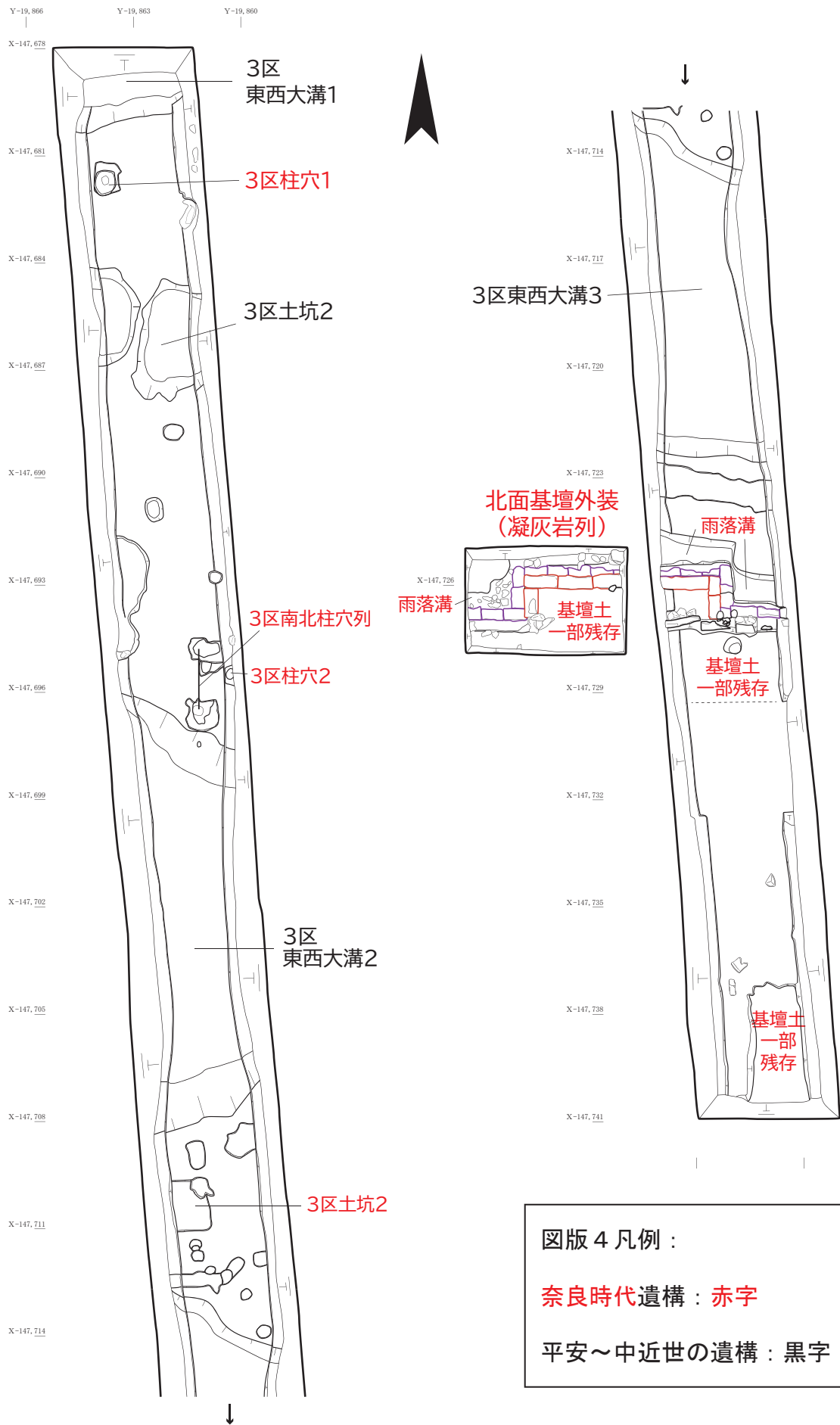
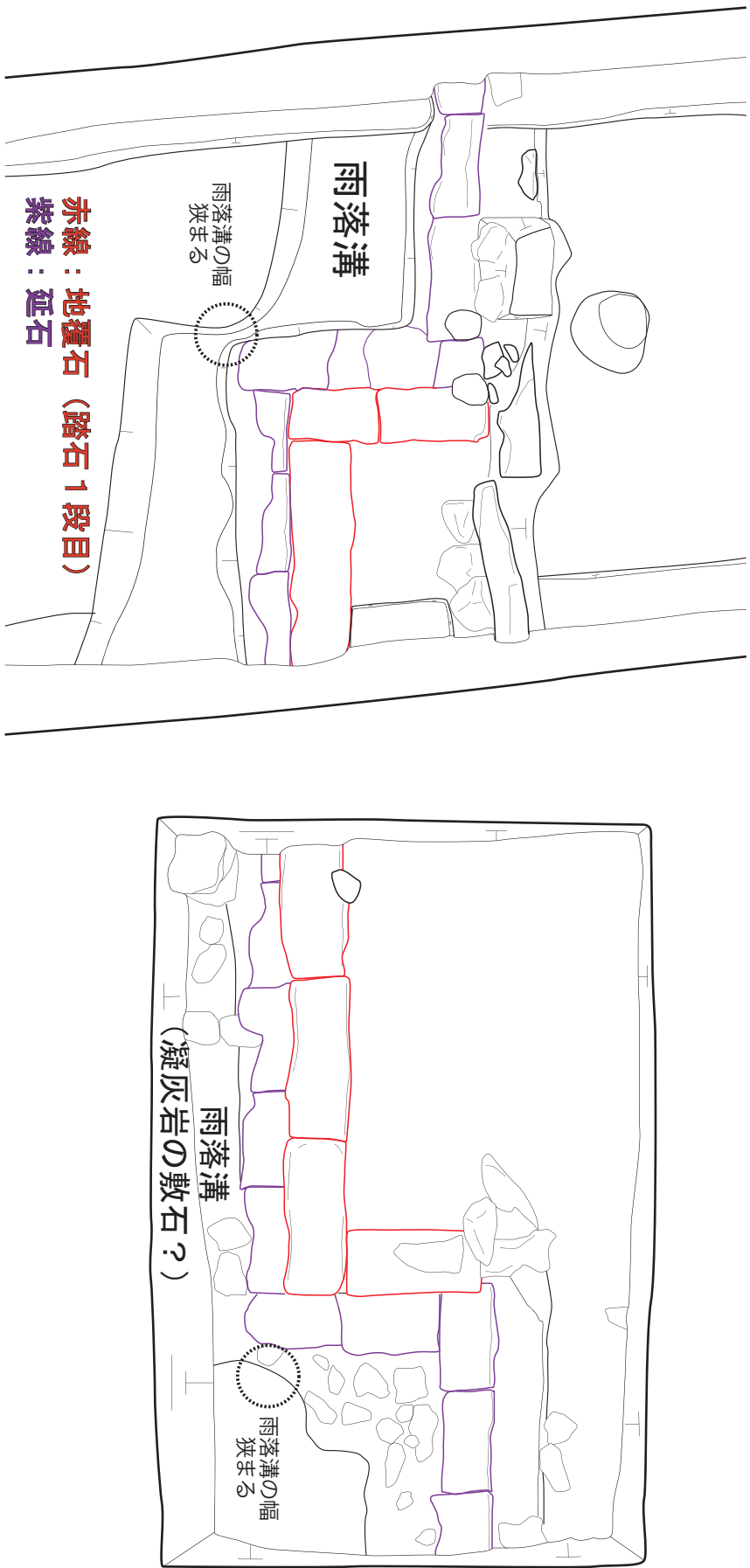


図7 3区奈良時代面遺構検出状況 (S=1/160)



赤線：地覆石（踏石1段目）  
紫線：延石

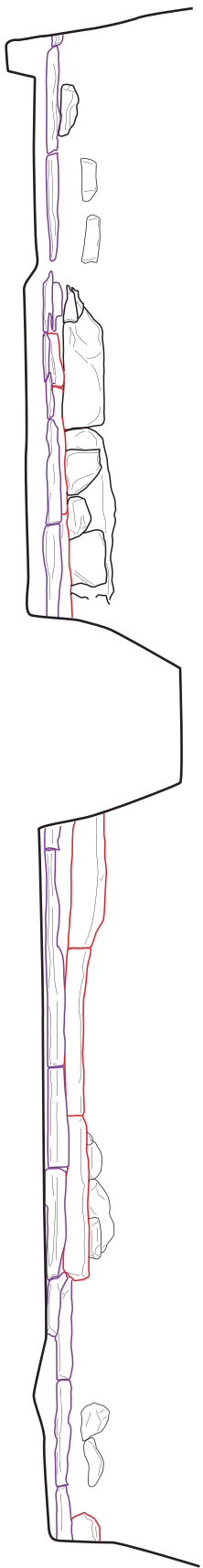


図 8 基壇建物の北面基壇外装・雨落溝検出状況（平面・立面、S=1/40）

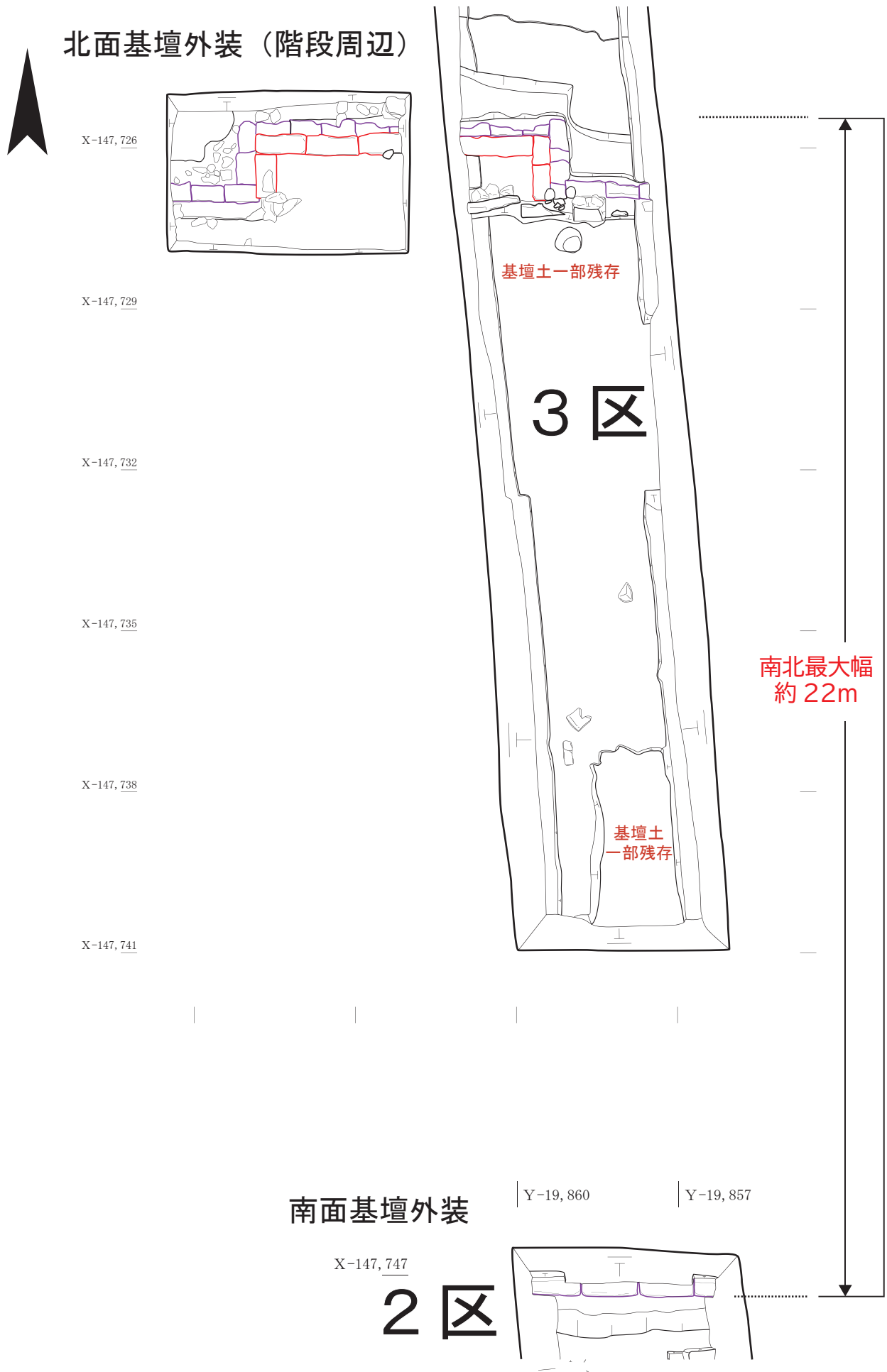


図9 基壇建物および基壇外装検出状況(S=1/100)





図 10 北面基壇外装・雨落溝検出状況写真  
(8月 27 日、北から)



図 11 南面基壇外装・雨落溝検出状況写真  
(9月 17 日、南から)